

今号の話題

- ・馬淵川、八戸にまつわる伝説の紹介。
- ・水防工法技術講習会を開催しました。

馬淵川、八戸にまつわる伝説

今号では、馬淵川や八戸にまつわる伝説の中から二つ紹介します。一つは馬淵川の名前の由来となった伝説「マベツの伝次」、もう一つは岩手県宮古市にある八戸にまつわる伝説「八戸穴」です。

馬淵川の名前の由来となった伝説「マベツの伝次」

昔、マベツ川の上流に、伝次という豪族がいた。伝次は名馬である「俊涼」をととても可愛がっていました。伝次は、三戸の長者の娘小夜と結婚しましたが、わがままな小夜は、田舎暮らしを嫌い実家に帰ってしまいます。

ある時伝次は、殿様の伯楽^{※1}として召し出されます。伝次の馬を扱う優れた技は素晴らしく、毎年殿様の調馬師として召し出されるようになり、やがて殿様に仕えている侍女の小波と恋仲になります。その翌年の春、小波は伝次について畑の屋敷に来ると、小夜が屋敷に戻っていました。小夜は小波を嫌い、酷い虐待をしました。

ある日、殿様からの呼び出しにかこつけて、伝次だけを三戸へやった小夜は、留守中にまむしをいっぱい入れた長持ちの中に小波を入れてマベツ川に流してしまいます。長持ちは川下に流れず畑の付近で七日七夜上がったたり下がったりしていました。

伝次が帰ってくると、小波がいないことに気づき、みんなに聞いてみましたが、誰も行方はわかりません。伝次は愛馬の俊涼に、小波の居場所を教えてくださいと懇願すると、俊涼は悲しい目つきですぐに伝次を畑の上流の淵まで連れて行きました。

すると淵の向こうで小波が髪を洗っていて、伝次が叫ぶとニッコリ笑ってすぐ淵の漣さざなみに消えてしまいました。伝次は悲しみのあまり小波を追ってその淵へ入りました。それを見た俊涼は、家へ全力で駆けて行き、小夜を蹴殺して自分も二人がいる淵へ入って二度と浮いてこなかったといいます。

それから、誰言うことなくその淵を「馬淵」と呼び「馬淵川」と言われるようになったそうです。



※1 伯楽^{はくらく}・・・牛馬の良否を見分けることに長ける人。
また、牛馬の病気を治す人。

岩手県にある“八戸”にまつわる伝説

岩手県の三陸海岸に面する宮古市には「八戸穴(はちのへあな)」という洞窟があります。八戸穴は半分海水に浸かった海蝕洞窟で、奥行きは8メートル程度です。季節や天候で色合いを変化させる神秘的な空間で、イタリア南部カプリ島にある「青の洞窟」になぞらえ、三陸海岸の「青の洞窟」とも呼ばれています。

八戸穴という名前には、昔、地元の漁師が犬を小舟に乗せ洞窟に入ったところ、数年後にその犬が八戸市で発見されたことから、この穴(洞窟)は八戸へ通じていたとして八戸穴と名づけられたという説があります。

八戸穴はさつぱ船(小型船)で遊覧することができます。海況に応じて出船しており、洞窟に入れた人は願い事が叶うかもと言われています。



水防工法技術講習会を開催しました。

令和5年2月10日(金)八戸市尻内町上川原にある八戸市馬淵川水防センターにおいて「水防工法技術講習会(ロープワーク講習会)」を開催しました。

講習会は、防災エキスパートや国土交通省職員など18名が参加して行われました。はじめに水防工法やロープワークのDVDを視聴した後、参加者全員で水防工法に使用するロープの結び方を行い、水防技術の習得に励みました。今回の講習会は、水防技術の知識や技能を習得する良い機会となりました。

近年各地で局所的な豪雨に見舞われており、水防を担う技術者の存在が大きくなっています。一方、水防活動を支える河川技術者や水防工法を指導する者は年々減少傾向にあり、水防技術の継承と指導者育成が喫緊の課題となっています。河川技術者の水防技術向上のため、これからも継続して水防工法技術講習会を開催していきます。

講習会の様子



〒039-1103 青森県八戸市長苗代二丁目5番8号
<http://www.thr.mlit.go.jp/aomori/syutu/hachikawa/>
TEL: 0178-28-2626

E-mail: thr-aomori01@mlit.go.jp
発行者: 国土交通省 青森河川国道事務所 八戸出張所

事務所SNSはこちら→



青森河川国道事務所Twitter



青森河川国道事務所HP



八戸出張所HP